

日本心理学会第79回大会（名古屋国際会議場）
9月23日(水・祝) 13:10～15:10 第14会場/2号館223
公募シンポジウム57

アドラー心理学のライフスタイル論をBig Five性格特性につなぐ

企画代表者：向後 千春（早稲田大学）
話題提供者：谷 伊織（東海学園大学）
話題提供者：伊澤 幸代
話題提供者：堂坂更夜香（早稲田大学）

企画趣旨（向後千春）

人々の成長過程が千差万別であるのと同様に、人々の性格特性もまたそれぞれにユニークである。とはいえ近年のパーソナリティ研究は、人間の性格特性はBig Fiveと呼ばれる5つの因子に集約できることを明らかにしている。

一方、現代のアドラー心理学では、性格特性を拡張した概念としてライフスタイル論を構築してきた。その類型論的モデルの1つは、（対人指向／課題指向）×（能動的／受動的）による4分類（安楽でいたい／好かれない／リーダーでいたい／優秀でありたい）である。ライフスタイル論の特徴は、日々解決していかなければならない課題（ライフタスク）に対して、自分はこうありたいというライフスタイルが働いて、課題に対する対処行動を決めていくというプロセスになっている点である。

本シンポジウムでは、ライフスタイル研究とBig Five研究の成果を持ち寄って、つなぐことで新たな展開を生み出そうとするものである。

アドラー心理学におけるライフスタイル類型論（伊澤幸代）

Adler(1928)は、人間の悩みは全て対人関係からだと言っている。アドラー心理学では個人固有の目標追求の癖を「ライフスタイル」という。個人のライフスタイルを知ることによって、個人の行動の意味と今後の行動の予測をすることができるとする（野田, 1984）。本発表では、ライフスタイル類型の理論背景と特性について概説し、先行研究についてその動向を報告する。

ライフスタイル診断シートの実践とBig Fiveとの関連性（堂坂更夜香）

アドラー心理学のライフスタイル類型論に基づき4つのタイプを簡単に自己診断できる質問14項目を作成し、調査を行った。アドラーは、使用目的を意識してライフスタイル類型を用いる必要性を述べている。このことから、類型に併せて、性格や人格の特性論的アプローチも必要になる。そこで、本発表ではライフスタイル診断シートの実践結果と性格特性論のBig Five診断（TIPI-J）との関連性について報告する。

Big Fiveと対人関係（谷 伊織）

Big Fiveモデルはパーソナリティを理解する上で簡便かつ明快なものであると言われ、さまざまな領域において用いられてきた。また、この理論はこれまでの性格理論を統合する枠組みとなりうることも考えられており、他の理論との関係についても多くのことが明らかになっている。本発表では、Big Fiveと対人関係との関連を示した研究を紹介し、アドラー心理学の知見と結び付けていくことを目的とする。